

「あなたがたは知られている」 —マタイによる福音書講解説教 50—

詩篇  
マタイによる福音書

第73篇 21節～28節  
第10章 24節～33節

説教 岡村 恒 牧師

この朝、私たちに主は何をお語りになるのでしょうか。羊をおおかみの中に入れる様なことになると、主イエスは語ります。今、この様に聖堂の中にいる時は良いけれども、家庭、地域、職場にいる時に、私たちは弟子たちの様に本当に過ごせるのでしょうか？

主イエスは悪霊を追い出しましたが、人々は主イエスがそれをできるのは、悪霊の王ベルゼブルだからだと悪口を言います。ところが、主イエスが十字架にかかった後、暗やみで戸を閉ざしていた弟子たちは、主の復活を語り始めます。耳にささやかれたことを、屋根の上で言いひろめるのです。このことで弟子たちは、やがて、迫害を受けたり、殉教したりします。

2羽のすずめは1アサリオンで売られています。これは貧しい者が買える唯一の食材だったのです。しかし、この小さい事柄の中にも、主のご計画があります。聖書を見れば、何も無い《無》から神が全世界を造り出されたことが分かります。このお方が私たちの生涯全体に対して、責任を負っておられます。髪の毛ひとつ筋まで、全知全能の神は知っていて下さるのです。肉体を持って人生を歩まれる主は、私たちの心の奥底まで知り尽くして下さいます。

けれども、私たちは神無しに生きようとしません。神に敵対して生きようとする私たちがいるのです。本来なら、神を恐れよ！と、繰り返す語られるところです。しかし、聖書は、「それだから、恐れることはない。」(31節)と、言います。神の前で、私たちの何がまざっているのでしょうか？人間だけが、神に逆らう者ではありませんか。人間だけが、神の前に立てない者であるはずで、すずめは神の手の内において生き、死んで行きます。しかし、人間は母の胎にいる時から、神に敵対する罪人なのです。

主イエスは本当の慰めを語ります。ここで弟子のペテロのことを見てみましょう。ペテロは主イエスの言葉をたくさん聴き、体験して過ごしました。ペテロは、「たとえあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどは、決してもうしません」(マタイによる福音書 26章35節)と言いましたが、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろ

う」(同 26章34節)と主イエスに言われた弟子です。ずっと主イエスと一緒にいて、奇蹟も目にしてきました。しかし、そのペテロですら、いざという時に激しくイエスとの関係を否定しました。このペテロのために主イエスは、「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。」(ルカによる福音書 22章32節)とおっしゃったのです。

私たちは、主イエス・キリストへの信仰を公けにすることが必要です。聖書は、心で信じるだけでなく、信仰を告白することを求めます。ひとりで家で聖書を読んでいると言うのではなく、洗礼式に於いて、礼拝の中で、信仰を告白しますか？と、尋ねるのです。皆と共に、イエス・キリストは私の救い主だ、という信仰を共に口して生きるのです。

主イエス・キリストについて聞いているだけであった者が、主イエスは十字架にかかって下さった救い主だと信じるのか？と、問われる時、手を挙げて、“信じる”と、歩み出るのです。ペテロも自分の力だけで信じ、信仰を告白し続けることはできなかったのです。

やがて弟子たちは、主イエスがどういうお方なのかを語り始めます。主イエス・キリストは十字架から降りず、そこに留まり続けて下さいました。その、主イエスの故に、日々、洗礼を受ける者が増やされてきたのです。

《あなたはわたしの愛する子、わたしのもの》だと、あなたの髪の毛一本までも知り尽くしておられる方が宣言して下さいます。あなたの身体と魂を救って下さるのです。あなたは受け入れられています。

やがて、弟子たちは、主の愛を宣べ伝える生涯を、命がけで邁進しました。ペテロも聖霊を注がれて、大胆に歩み出しました。聖霊なる神に造り変えられ、神と隣人を愛して歩む者にされたのです。神は、私たちおも助け、慰め、導き、試練さえも与えて下さり、守り通して下さいます。《恐れることはない。わたしはあなたを知っている》と仰り、私たちの救いを宣言して下さいます。

(記 説教要約奉仕者)